

発行所 (郵便番号100)  
東京都千代田区丸の内2-4-1  
丸の内ビルディング781号室  
社団法人スウェーデン社会研究所  
Tel (212) 4007-1447  
編集 中嶋 博  
責任者  
印刷所 関東図書株式会社  
定価200円 (年間購読料参千円)  
1986年7月25日発行  
第18巻 第7・8合併号  
(毎月1回25日発行)  
昭和44年12月23日第3種郵便物認可

# スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol. 18 No. 7・8 合併号

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning  
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)  
Marunouchi-Bldg., No. 781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

## チェルノブイリ後とスウェーデン

After Chernobyl and Sweden

毎日新聞編集委員 原 剛  
Mr. Takeshi Hara

あの、温厚な人柄のカールソン首相が色をなして云い返した。「スウェーデンは、オモチャ箱を作っているわけではない。！」。

さきごろデンマークを儀礼訪問し、記者会見でコペンハーゲンを目と鼻の先にしたボーシュバック原子力発電所の閉鎖を迫られたときのことである。

ソ連のチェルノブイリ原子力発電所事故で社会主義圏外では、まさきに放射能のチリを浴びせられたスウェーデンが、例によって秘密のカラにたてこもるソ連政府に、数々の動かぬ証拠をつきつけて事故の公表に追いこんでいった鮮かなお手並はご存知のとおりである。

だが、そのあとがいがなかった。

マルメからコペンハーゲンへ向かう船窓の右手沖合いに巨大な二本の煙突に挟まれて、白亜の大ビルディングが迫ってくる。

スウェーデンで稼働中の12基の原発のなかで最も南側にあるボーシュバック原子力発電所である。コペンハーゲンからわずか15キロ。他国の首都と目と鼻の先、スウェーデンのマルメ市をふくめて半径40キロに250万人が住んでいる。

チェルノブイリ事件にショックをうけたデンマーク国会は「ボーシュバック原発の即時閉鎖」を決議、スウェーデン政府につきつけた。「そんな無理難題をふきかけなされるな。もとはといえば、あなた方が電気を分けて欲しいというから、あの場

所に建てたのじゃありませんか」などとは、オトナのスウェーデンは言わない。女性閣僚の人気者、ブリギッタ・ダール環境・エネルギー大臣は「驚きましたネ。ソ連の原発は放射能洩れ防止のカバーさえつけてないのですから」とやんわり「スウェーデン製原発の安全性」をPRしたものである。カールソン首相の「オモチャ箱」発言の背景である。

とまれ、1980年の国民投票に基き「2010年までに全原子力発電所のスクラップ・ダウン」を国会で決議しているスウェーデンである。

その手順として、1995年に12基ある原発の廃止順位を決めることになっており、ボーシュバック原子力発電所が、その第一順位にあげられる可能性がきわめて強くなった。

他にさきがけて、思い切った政策を打ちだす、「文明の実験国・スウェーデン」ならでの現象である。  
(ストックホルムにて)

### 目次

チェルノブイリ後とスウェーデン……原 剛… 1
(ニュース)スウェーデン大使ご夫妻ならびに ルバック報道官ご夫妻の送別会…………… 2
スウェーデンの夏……………三瓶恵子… 2
(研究会報告)婦人問題研究会…………… 4
SIPニュース…………… 4
北欧幼児保育調査視察団帰国…………… 6

## スウェーデン大使ご夫妻ならびに ルバック報道官ご夫妻の送別会

このたび、グンナル・ルネウス駐日スウェーデン大使ならびにマグヌス・ルバック大使館報道官には、ご退任されることに相成りました。

当スウェーデン社会研究所ならびに日瑞基金といたしましては、永い日本ご在任中に賜りました厚いご援助とご指導に感謝の意を表すると共に、お別れを心よりおしみますため、去る7月15日霞が関ビル33階の東海大学校友会館会議室に各ご夫妻をお招きして、送別の昼食会を開催いたしました。

主催者側よりは、松前研究所会長、山下基金会長、西村研究所理事長、竹市、中嶋および藤牧の3常務理事のほか、三宅、上田両元駐瑞大使も出席し、思い出のあれこれに歓談はつきず、両ご夫妻の今後のご多幸を祈りつつ送別の宴を閉じた次第でありました。

## スウェーデンの夏

Summer in Sweden

会員 三 瓶 恵 子  
Ms. Keiko Kjellsson-Sampej

スウェーデンの夏の風物は？ と問われた時に私の頭の中にまず浮かぶのは「雨」です。意外に思われるかもしれませんが、毎年待ちに待った春が訪れた後、ようやく樹々がたよりない黄緑からしっかりと濃い緑になるころ、雨と太陽がめまぐるしく交互に人々をおそう初夏がやってくるのです。一年中で一番日が長い時期でもありますから、一日中雨ばかりというのではなく、一日のうちでくると天気が変わります。雨が降っても一旦晴れてしまえばサラッとしますから、日本の梅雨のようなじめじめした感じはありません。ぬれたとしてもすぐかわいてしまいます。そのせいもあってか、スウェーデンの人達は昔はあまり傘をささなかつたようですが、最近では特に都会を中心に傘をさす習慣が固定化してきたようです。ここで話が横道にそれますが、スウェーデンの折りたたみ傘は日本のとは折りたたみの方向が逆になっており、たたみやすく、また手がぬれないようになっています。日本の傘にくらべるといかにもゴツくできていますが、機会のある方は一度お試しになってごらんになるとよいかと思えます。

初夏の雨の時期が去ると、次は夏至祭と休暇旅行の時期になります。気の早い人達は子ども達の学校が6月第1週又は、第2週（年によって違ってくるのですが）で終わった後、すぐ海外に休暇旅行に行きます。スウェーデン国内に残っていれば夏至祭にも出ますが、子どもにせがまれて、あるいは考えても元気な両親のところに行ったついでに参加するといったかんじです。スウェーデンの一年間のうちの最大のお祭りであるクリスマスに比較すれば、同じ国民的伝統行事といっても力の入れぐあいがかなりちがっているような気がします。まあこれは、春の復活祭以後夏至祭りの前までキリスト教関係の休日が多く、地域の新しいお祭り、カーニバルや文化的行事が毎週のようにあることにも一因があるでしょう。若者や一人者の大人達は、「夏至祭り？ フン、興味ないね。」といったような調子で、たいてい休暇までの残り日数を指折り数えながら、庭や公園、湖畔等でほとんど全裸に近い姿で日光浴をしてのんびりとすごすようです。

ただ、「行事」としては少々衰え気味の夏至祭りですが、結婚シーズンとしては依然として勢力を保っているようです。6月の花嫁は一番幸福になれるといういい伝えに加え、気候がよく夜っけて野外で結婚披露パーティーができるとか、花嫁・花婿用の花々が豊富にあるとか、いろいろな条件がそろって

いるからでしょうが、もしかしたら一番の理由は、「結婚記念日を忘れない」ためかもしれません。夏至祭りのシーズンほどではないですが、クリスマスやイースター等の「国家の祭日」にも新聞の家庭・家族欄に載る結婚式の記念写真がどっと増えるのです。

7月にはいると大きな工場の夏季一斉休業がはじまります。真夏でも南ヨーロッパのリゾート地へは一人2週間、6万円も出せば行けますから（往復の飛行機代、長期滞在型ホテルの宿泊料込み）、一家四人で国外脱出しても、それほどお金がかかるものでもありません。べつに高額所得者でなくとも海外バカンス旅行にいけるのです。

けれどもスウェーデン国内で、いつも住んでいる所に比較的近いところに夏の別荘を持つという方が海外旅行よりも人気があるようです。湖畔の古い家を最初は夏だけ借り、そのうち何年かたってその場所が完全に気に入ると自分の別荘として買いつけて、夏だけではなく週末に憩いに行くというパターンになります。そのために通常の居住地域からあまり離れてもいず、かといってそれほど近くもない20～50キロメートルの距離のところでは別荘を物色する人が多いようです。別荘があるところは「別荘地域」として、2、3軒の例外を除いて、たとえ自分のもちものであっても、一年中そこに居住してはいけないことになっているところもあります。それは多分自然を守るためと、地方自治体の管理（暖房やゴミ集め等）がゆきとどかないためでしょう。もちろん特別な別荘地域以外では、一年中好きな時に出かけていってずっと住むことができます。別荘にはたいい広い庭がついていて、暖炉や井戸のある古い家が多く、大変安い値段で購入することができます。私の友人は去年大変広い庭つきの別荘を約150万円で買いました。もちろん家はあちこち修理しなければなりません、それもまた楽しみの一つで、自分でペンキをぬったり穴をふさいだりしています。別荘にはあまり「文明」をもちこまないようにし、子ども達がただひたすら自然と親しむようテレビも置かない家庭が多いようです。また都市での生活に疲れたお年より達が別荘で余生をすごすことにするといった生活パターンも珍しくありません。

7月中旬から8月上旬くらいまでは、街には人がいなくなり、歩いているのは外国からの旅行者ばかりというようになります。その旅行者達も、ほとんどしまっている商店街の中で所在なくウロウロと歩きまわるばかり。普通、公務員等は夏季には労働時間が短縮される上に、夏季特別手当が給料に加算されるのですが、それでも夏に働きたがる人はあまりおらず、毎年各自の休暇期間の希望を職場で調整する時にはケンケンゴウゴウの議論になるそうです。それで夏にお店や役所に残っているのは、くじや議論に負けて仏頂面をしている店員・職員か学生アルバイトかで、仕事はなかなかかはかどりません。銀行の支店等は、週3日、5時間ずつしか営業しないところもみられます。

8月中旬になるとまた各地に散っていた人々が戻ってきて、8月下旬、学校の新学期がはじまる頃にはまた普段の生活のペースになります。その頃また雨が3日おきくらいに降って、一雨毎に秋の気配が高まり、きのこや草の実が森の中にあらわれてくるのです。

スウェーデン人達の夏の過ごし方で一番興味深い点は、彼らが文字通り「休む」ことです。太陽があれば、こぞって芝生の上で、あるいはベランダで日光浴をします。昼寝をしたり、読書をしたり、ラジオをきいたりしながらゆっくりと「休むこと」を楽しむのです。海外旅行に行っても「滞在型」が多く、日本人のように名所旧跡をかけめぐったり、おみやげ買いに精を出したりすることはあまりありません。陽光を浴びること、ゆっくり休むことは、スウェーデン人達が長い冬をのりこえてゆくための必要条件なのかもしれません。一年中日光に恵まれている日本にいる、休むことを忘れた日本人とは大変対照的であるような気がします。

夏の太陽はスウェーデン人達の心の氷をとかす力をもっているかのようです。冬の間、目をつりあげて、あるいは眉をしかめて耐え忍んでいた人々は、春になるともう自分でもとめようがないほど、ほほえみを顔面にあらわしてきます。それが夏になると一層表面化して、何かにつけて声を出して笑うようになるのです。同じよっぱらいでも冬のよっぱらいより夏のよっぱらいの方が少しは可愛気がありますし。冬のよっぱらいは近よったらすぐナイフでさされてしまうのではないかと思わされるような危険がありますが、夏のよっぱらいは適当にはぐらかしておけばニコニコ笑いながらどこかにいってしまうような感じがするのです。よっぱらいの話はさておき、スウェーデン人と仲よくなるには夏が一番よい季

節でしょう。「暖くて気持ちがいいですね。」「なんて暑いんでしょう! でもグチをいってはバチがあたりますよね。」と話しかければ、誰でも笑顔で返事をかえしてくれるでしょう。これが冬ですと、「寒いですね。」と話しかけても、返事もしたくない寒さですから、なかなかコミュニケーションがうまくいきません。

スウェーデンにいらっしゃるのなら是非、冬と夏の両方おでかけになることをおすすめします。両方そろってはじめてスウェーデン人像の全体がわかるような気がします。

## 研究会報告

# 婦 人 問 題 研 究 会

去る、7月16日に、当研究所において、当研究所の月報の Göteborg 通信でお馴染みの三瓶恵子氏の「スウェーデンの女性」と題した講話を中心に女性問題に関する研究会が開催された。

その講話は、まず、女性の社会活動の分野の拡大に関し、女性の就職分野、就業形態としてのパートタイマー、低賃金労働の傾向に見られる女性の労働条件など、スウェーデンにおける男女平等問題の歴史についての解説に始まり、1980年施行の男女雇傭平等法にもとづく不服申立制度、ストックホルム式結婚といわれる世界で最も多数と云われている所謂同棲の問題などにふれた極めて興味深い内容のものであって、講話終了後予定時間に余る熱心な質問応答が行われた。

## 《SIP ニュース》

### 地域暖房をストックホルムの10万所帯に提 供する 100 MW の浮き熱ポンプ設備

4月24日、バルト海からの冷水を用いてストックホルムの10万所帯に地域暖房を供給する浮き熱ポンプ設備が、ストックホルムの古い海軍工廠から進水した。大きさの点で1万5,000トンのタンカーに匹敵し、スコونسカ (Skan ska) が建造したこの巨大な構造物は、スウェーデンの首都の東部に位置するベツタン地域暖房プラントに係留される予定である。

コンクリートと鋼から成り、アセアスタール (ASEA Stal) 製の機械類を装備したこのポンプ設備は、操業コストとして3億クローナ (72億円) かかると見込まれている。同設備は、出力100 MW、操業後はスウェーデン第二の強力な設備となり、年間50万~60万立方メートルの石油の節約に貢献するといわれている。

新熱ポンプは全長100メートル、全幅20メートルで、設置のために係留所まで個々に引かれていく5つのモジュールよりなる。作動の手順は次の通り——1秒に8~9立方メートルの海水が同設備の装置及び蒸発室にくみ上げられる→海水からの熱エネルギーが、ヒートポンプの蒸発器の中の冷凍剤に移転させられる→冷凍剤の圧力と温度が、2段階のターボ圧縮機の助けを借りて、上げられる→冷凍剤はコンデンサーの中の水を60℃~80℃に熱し、海水は海にもどされる。

最近、ストックホルム地区には湖水を利用する多くのヒートポンプが設備され、これにより、空中のイオウ放出物が減じ、暖房用の石炭と石油の需要量も減少し、環境改善に役立っているといわれている。ベツタン地区の地域暖房プラントは今後徐々にその石油依存率を減少させていく予定で、世紀の変わり目からはその主要ゼネレーターの一つが撤去される見込みだという。

## スウェーデンで稼働を開始した使用済み核燃料のための中間貯蔵施設

此の程、スウェーデンの新しい使用済み核燃料のための中間貯蔵施設がエネルギー及び環境問題担当相ビルギッタ・ダール女史 (Mrs. Birgitta Darl) 立会いのもとに落成式を挙行、正式に稼働を開始した。

10か月に亘る本格的操業に入った中央施設はCLABといい、南東スウェーデンのバルト海沿岸にあるオスカシュハムン (Oskarshamn) 原子力発電所の近くに位置している。同設備は今後40年の間、スウェーデンの4つの原子力発電所から出る使用済み核燃料を全て、地下の巨大な岩穴に貯蔵するために使用される。

使用済み核燃料はおよそ1年間原子力発電所の貯蔵プールで冷却されてから、特別な輸送だるに入れられてCLABに移送される。この輸送だるは、重量およそ80t、沸騰形原子炉からの17の燃料集合体——加圧水形原子炉の場合は7つの燃料集合体——を収納することができ、極めて堅牢な造りである。同容器は受入れ所の床下の空気止め通路を通して中央施設に送られた後に、天井走行起重機によって持ち上げられ準備セルに運ばれる。そこで、輸送だるは防護メタルスカートを着せられ、水で冷やされて輸送ワゴンで燃料取出し用プールに運ばれる。ふたはそこで操作装置により取り除かれる。

次に、燃料集合体が輸送だるから取り出され、その次の輸送と貯蔵のためのユニットである貯蔵キャニスターに収納される。キャニスターは輸送溝を通じて、操作装置で燃料エレベーターに移送され、水で満たされたエレベーターケージで貯蔵所までおろされる。別の操作装置によりキャニスターはエレベーターケージから持ち上げられ、輸送溝を通じて貯蔵プールの一つに送られ、そこであらかじめ決められていた位置に最終的に置かれる。

CLAB施設における操業は、二個のメインコンピュータから成るコンピュータ制御装置により中央コントロールルームからモニターを用いて監視される。コンピュータの一つが破壊した場合、もう一つのコンピュータが操業を中断せず済むように稼働に入る。さらに、同施設にはローカルコントロール装置も装備されている。

CLABプールにおよそ40年を貯蔵された後、使用済み核燃料はカプセルに入れられストックホルム北部のフォッシュマルク (Forsmark) 原子力発電所近くのバルト海海底下60mの床岩に建造された核廃棄物のための最終貯蔵所SFRに移送される。SFRは、1988年に原発操業の結果生ずる低・中レベルの核廃棄物並びに医療及び工業利用により出るかなりの放射性廃棄物並びに医療及び工業利用により出るかなりの放射性廃棄物の受入れを開始する予定である。

この種の施設としては世界初といわれるCLAB施設は、建設に5か年の歳月と17億クローナ (408億円) のコストを要した。現行の貯蔵能力は3,000トンであるが、1995年以降は7,900トンにまで拡張される見込みである。これまでに、約200トンが既に受入れられた。同施設は、SKB (スウェーデン核燃料及び廃棄物管理会社) の所有で、OKG (3原子炉タイプのオスカシュハムン原子力発電所を所有する国際合弁企業) により運営されている。

落成式でのスピーチで、ダール女史はスウェーデンの核廃棄物管理システムが基とする原理を繰返したが、それらは、安全並びに放射線防護のための最大級可能な需要を充しつつ軍事プログラムへの直接的・間接的参加を排除する責任ある取扱いや全ての使用済み核燃料並びにその他の放射性廃棄物に十分な責任をとるといふ言質を含むものであった。また、女史は核拡散の危険という観点から、そして経済的理由から、スウェーデンの核廃棄物はいかなる再加工もなしに保管されるべきであり、貯蔵室のための技術と場所の最終的選択は、研究開発を、2, 30年続けた後まで行なわれない見込みである、と述べた。

スウェーデンでは現在、全部で12基の原子炉が操業中で、それらの総出力は9,665MWeである。1985年の原子力発電による電力生産は56TWhであったが、これが我国の総電力生産に占める割合は42%であった。なお、水力発電と主として石油、石炭に頼る火力発電による電力生産の対全体比は各53%、5% (前年と変わらず) であった。

## 北欧幼児保育調査視察団帰国

予て、本誌上にてご紹介しました通り、標記視察団の荒井洌団長ほか一行21名の方々は、去る7月9日出発し、スウェーデン、ノールウェー、フィンランドの3カ国を歴訪し、各国の乳幼児保育の実情ならびに問題点を調査し、7月19日に無事帰国されました。

その視察の結果は、本誌次号以降にても会員各位にご報告いたします。

以下に参加者の芳名を掲載すると共に、ご視察の労をおねぎらい申し上げます。

(敬称略、アイウエオ順)

団長 荒井 洌	埼玉県立衛生短期大学保育学科	下田 典子	下田保育園
		鈴木美也子	白鳩保育園
伊藤 良子	草加市役所児童課	関口 雪	学 生
大槻美沙子		高橋真紀子	白岡町立千駄野保育所
嘉規小夜子	川口市立仁志町保育所	竹下 成子	鷺宮保育園
嘉規 智織	学 生	平井 睦子	吹上町立鎌塚保育所
北川 正子	名古屋市立東山保育園	政野 夏香	㈱よみうり地域サービスセンター
桑原千重子	町田学園石坂幼稚園	増田 久子	ほしのみや保育園
後藤 陽子	深谷西保育園	吉野 静子	川口市立青木西保育所
斎藤 栄子	東京都立七生福祉園	(添乗) 小笠原長保	㈱東海トラベルビューロー
佐々木和子	㈱パルジニア		
佐藤 慶子	飯能市立加治東保育所		

## 寄贈図書・資料の紹介

- 北欧諸国・フランスの老人医療政策と中間施設・住宅ケアの現状  
—— 第8回外国医療問題研究調査団報告 ——  
健康保険組合連合会 編 1985
- 保育の時代と育児文化  
荒井 洌著 株式会社相川書房刊 1986
- 社会保障年鑑 1986年版  
健康保険組合連合会編 東洋経済新報社刊 1986

### お知らせ スウェーデン研究者必携“資料リスト”

今日のスウェーデンの各方面の事情を鮮明に解説した図書、パンフレット、その他の印刷物のタイトルを網羅した“Publications on Sweden 1986”という題目のカタログ集が、スウェーデン大使館より提供されますので、ご入用の方は、直接大使館へお申し込み下さい。